

「窓展：窓をめぐるアートと建築の旅」

The Window: A Journey of Art and Architecture through Windows

会期：2019年11月1日（金）～2020年2月2日（日）

会場：東京国立近代美術館 1階 企画展ギャラリー

マティス、クレー、デュシャン、リヒター、ティルマンスからル・コルビュジエ、カーンまで

窓をめぐるアートと建築の旅に、さあ出かけよう。

マティスやクレー、デュシャンなど 20 世紀美術の巨匠から、リヒターやティルマンスなど現代美術の巨匠、そして、ル・コルビュジエやカーンら建築家まで。

ジャンルを超えて集まった、58 作家、110 点余をご紹介します。

このたび、東京国立近代美術館と一般財団法人 窓研究所は、「窓展：窓をめぐるアートと建築の旅」を開催します。

窓はわたしたちの暮らしにとって欠かせない身近なもの。もしかしたら身近すぎて気にも留めないものかもしれません。しかし、実はこれまで驚くほど多くのアーティストや建築家が、窓からインスピレーションを得て作品を作っています。それは窓が、アートと同じく、日常の中に新しい世界の眺めを開いてくれるものだからです。

展覧会場を出た時、こころの窓がふと開き、いつものくらしが新しく見える。そんな経験をしていただきたくて、この展覧会を企画しました。

アンリ・マティス 《待つ》 1921-22 年
油彩・キャンバス 61×50cm 愛知県美術館



●本展のみどころ

- アンリ・マティスやパウル・クレー、マルセル・デュシャンなど 20 世紀の巨匠から、ゲルハルト・リヒターやヴォルフガング・ティルマンスなど現代美術の巨匠までが勢ぞろい。
- 8 枚の大型ガラスがあなたの姿をさまざまに映し出す。ドイツの巨匠、ゲルハルト・リヒターの超重量級立体作品《8 枚のガラス》（2012 年）は必見。
- 窓を切り口に建築とアートの歴史をたどる全長 12 メートルの年表を展示。（制作：東北大学 五十嵐太郎研究室）。
- ル・コルビュジエ、ルイス・カーン、ジェームズ・スターリング、ピーター・アイゼンマンなどの建築家が描いた貴重な窓のドローイングを紹介。
- 「窓研プロジェクト」として、当館前庭に建築家、藤本壮介の《窓に住む家/窓のない家》が出現します。



ヴォルフガング・ティルマンス
《tree filling window》 2002 年
タイプ C プリント 61×51cm
ワコウ・ワークス・オブ・アート

● 展覧会構成

14の章に、絵画に描かれた窓、室内・屋外の接点としての窓、窓をめぐる建築とアートの歴史などのテーマでさまざまな作品が並びます。絵画、写真、版画、映像、インスタレーション、建築など、ジャンルを超えて58作家、110点余をご紹介します。

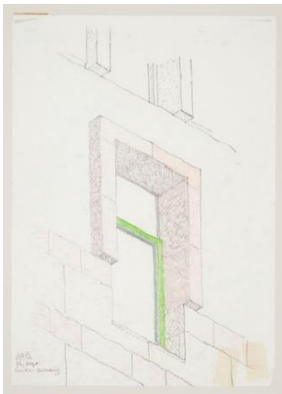
(会場構成：西澤徹夫建築設計事務所)

■ 1. 窓の世界

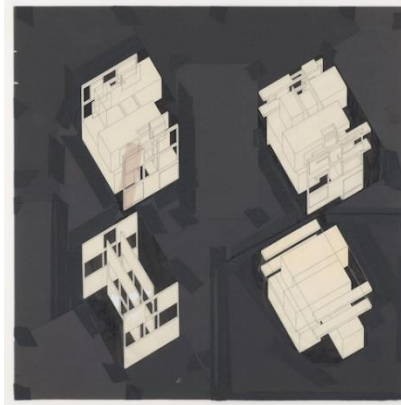
バスター・キートンの名作映画《キートンの蒸気船》からスタート。窓の世界へとみなさんをいざなうイントロダクションです。

■ 2. 窓からながめる建築とアート

東北大学 五十嵐太郎研究室が、時代や洋の東西を問わず窓と建築とアートの歴史をたどる全長 12 メートルの年表を制作。ル・コルビュジエ、ルイス・カーン、ジェームズ・スターリング、ピーター・アイゼンマンなどの建築家による窓のドローイングや貴重書もあわせて展示します。



ジェームズ・スターリング／マイケル・ウィルフォード
《ベルリン科学センター》(ドイツ、ベルリン) 窓詳細図
1979-87年 色鉛筆、ペンとインクによる銘文・静電複写用紙
29.7 x 21 cm カナダ建築センター
©CCA James Stirling/Michael Wilford fonds Collection Centre Canadien d'Architecture/ Canadian Centre for Architecture, Montréal



ピーター・アイゼンマン
《住宅第4号》(コネチカット州フォーラムズ・ビレッジ) アクソノメトリック図
1970-71年頃 インク・紙 61 x 61 cm
カナダ建築センター
©CCA Peter Eisenman fonds Collection Centre Canadien d'Architecture/ Canadian Centre for Architecture, Montréal

■ 3. 窓の 20 世紀美術 I

アンリ・マティス、パウル・クレー、岸田劉生など 20 世紀絵画おなじみの巨匠が描く窓をご紹介します。あっ、これも窓だったのか！という驚きの一枚も。



アンリ・マティス
《待つ》
1921-22年 油彩・キャンバス
61×50cm 愛知県美術館



ピエール・ボナール
《静物、開いた窓、トルーヴィル》
1934年頃 油彩・キャンバス
98×60 cm アサヒビール大山崎山荘美術館



岸田劉生
《麗子肖像 (麗子五歳之像)》
1918年 油彩・キャンバス
45.3×38cm 東京国立近代美術館

【ポイント これも窓？】

よく知られる「麗子像」ですが、実は「麗子を描いた肖像画」ではなく、「『額縁という窓の向こうに描かれた麗子の肖像画』を描いた絵」というだまし絵になっています。額縁を用いたヨーロッパ伝統のだまし絵の技法を取り入れた作品です。

■4. 窓の20世紀美術 II

四角を用いた抽象絵画のイメージ源は窓？難しそうな抽象絵画を「こころの窓を開くもの」と捉えることで、鑑賞がぐっと楽しくなります。マーク・ロスコ、ロイ・リキテンシュタイン他。

パウル・クレー 《花ひらく木をめぐる抽象》 1925年
油彩・厚紙 39.3×39.1cm 東京国立近代美術館



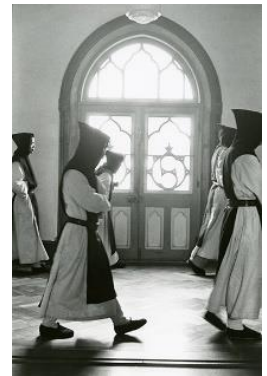
■5. 窓からのぞく人 I

外の世界はこわいもの。でも窓から外をのぞいてみずにはいられない。安井仲治、林田嶺一、ジェームズ・キャッスルなどの緊張感に満ちた作品をご紹介します。

■6. 窓の内、窓の外：奈良原一高〈王国〉

日本を代表する写真家、奈良原一高の名を一躍高めた初期の作品。男子修道院と女子刑務所、閉ざされた場所で暮らす人々と窓の姿を追います。

奈良原一高 《〈王国〉より 沈黙の園 6》 1958年
ゼラチン・シルバー・プリント 47.6×31.4cm 東京国立近代美術館
© IKKO NARAHARA



■7. 世界の窓：ようこそ西京に一西京入国管理局

歌ったり踊ったり笑ったりしないと前に進めない入国管理局!? 架空の国の入国管理局で、世界に開かれた窓について考えます。

西京人（小沢剛、チェン・シャオジョン、ギムホンソック）
《第3章：ようこそ西京に一西京入国管理局》 2012年 金沢21世紀美術館
での展示風景（2016年） ミクストメディア 作家蔵
Courtesy of the Artist 撮影：木奥恵三



■8. 窓からのぞく人 II：ユゼフ・ロバコフスキ

ポーランドを代表する映像作家。22年にわたり自宅の高層アパートの窓から中庭を実況中継した、驚異の、かつユーモアあふれる作品をご紹介します。

■9. 窓からのぞく人 III：タデウシュ・カントル

戦後を代表するポーランドの演劇人。その原風景となるふるさとの小学校の教室をかたどった大型インスタレーションを日本初公開。

■10. 窓はスクリーン

現代において、絵画の代わりに遠い世界の光景を室内まで運んでくれるのは、テレビやPCといったスクリーンです。ロバート・ラウシェンバーク、ナム・ジュン・パイク、久保田成子などの作品でクールな電子の窓をご紹介します。

ナム・ジュン・パイクとジョン・ゴドフリー
《グローバル・グルーヴ》 1973年
ビデオ 28分30秒 東京国立近代美術館
© Electronic Arts Intermix(EAI), New York



■ 11. 窓の運動学

空気や光を入れたり、湿気や暑さ、寒さを追い出したり。窓には私たちの生活に欠かせない機能があります。でもその機能を取り払って、ただ開いたり閉まったりするものとして窓を捉え直してみたら？ひたすら動く窓が、なんだかいいとおいしい生き物のように思えてきます。スイスの大御所、ローマン・シグネールや、伝説のアート・ユニット、THE PLAY の破天荒なプロジェクトをご紹介します。



ローマン・シグネール
《よろい戸》2012年
木造構造物、
3 台の扇風機
280×280×240cm 作家蔵
© Roman Signer Photo:
Michael Bodenmann



ズビグニェフ・リプチンスキ
《タンゴ》 1980年 ヴィデオ
(35mm フィルムより変換)
8 分 10 秒 ズビグ・ビジョン
© Zbig Vision

■ 12. 窓の光

自室を丸ごとピンホール・カメラに変えた青年、山中信夫。山中に対するオマージュ作品〈Camera obscura — thirty six views of mount fuji〉より、新作を含め展示予定のホンマタカシ。世代の異なる二人のアーティストの作品をご紹介します。

■ 13. 窓は希望

8 枚の大型ガラスがあなたの姿をさまざまに映し出す、ドイツの巨匠ゲルハルト・リヒターの超重量級立体作品。圧巻です。



ゲルハルト・リヒター 《8枚のガラス》 2012年 ガラス、スチール構造物
230×160×378cm ワコウ・ワークス・オブ・アート
© Gerhard Richter, courtesy of WAKO WORKS OF ART Photo: Tomoki Imai

■ 14. 窓研プロジェクト 藤本壮介《窓に住む家/窓のない家》

当館前庭に建築家、藤本壮介の《窓に住む家/窓のない家》が出現します。高さ約 7m、藤本の代表作の一つ、《House N》(2008) の大型コンセプトモデルです。

● 関連イベント

夜間開館（毎週金、土曜は夜 20 時まで開館）を中心に、本展担当キュレーターによるギャラリートークを開催します。詳しいスケジュールは随時当館 WEB サイトにてお知らせします。

一般財団法人 窓研究所とは？

窓研究所は、「窓は文明であり、文化である」の思想のもと、建築文化の発展に寄与するべく、窓や建築に関する多角的な知見の収集・発信に取り組み、研究や文化事業等の助成・開催をおこなう財団法人です。これまでに窓研究所では、独自に実施する研究活動に留まらず、国内外の研究機関、美術館、民間機関等との連携を行うことにより、建築、文化、芸術など、多彩な分野における国際的な取り組みを展開してまいりました。そうした活動の一例として、窓研究所は 2020 年春の外務省・戦略的対外発信拠点・ジャパンハウス（ロンドン、ロサンゼルス、サンパウロを巡回）における建築展の開催、カナダ建築センター（モントリオール）との共同出版など、本美術展のほかにも、ジャンルに捉われないさまざまなプロジェクトを展開しております。窓研究所の多彩な活動にご期待ください。

[公式 HP <https://madoken.jp/>]

●開催概要

タイトル (日) (英)	窓展：窓をめぐるアートと建築の旅 The Window: A Journey of Art and Architecture through Windows
会期	2019年11月1日 [金]－2020年2月2日 [日]
開館時間	10:00－17:00 金曜・土曜は 20:00 まで（入館は閉館 30 分前まで）
休館日	月曜日（ただし 11 月 4 日、1 月 13 日は開館）、11 月 5 日 [火]、年末年始（12 月 28 日 [土]－2020 年 1 月 1 日 [水・祝]）、1 月 14 日 [火]
主催	東京国立近代美術館、一般財団法人 窓研究所
共催	東京新聞
助成	スイス・プロ・ヘルヴェティア文化財団、アダム・ミツケヴィッチ・インスティテュート /culture.pl/jp
後援	在日スイス大使館、ポーランド広報文化センター
学術協力	五十嵐太郎（東北大学教授／建築史・建築批評家／「窓学」総合監修）
会場	東京国立近代美術館 1 階 企画展ギャラリー 〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園 3-1
アクセス	東京メトロ東西線「竹橋駅」1b 出口より徒歩 3 分
観覧料	一般 1,200（900）円、大学生 700（500）円 ＊高校生以下および 18 歳未満、障害者手帳をご提示の方とその付添者（1 名）は無料。 ＊（ ）内は 20 名以上の団体料金。いずれも消費税込 ＊無料観覧日：11 月 3 日 [日・祝] 文化の日
お問い合わせ	03-5777-8600（ハローダイヤル）
ホームページ	https://www.momat.go.jp （東京国立近代美術館） https://madoken.jp （一般財団法人 窓研究所）
同時開催	「鏑木清方 幻の《築地明石町》特別公開」＊要別途観覧料、窓展とのセット券も販売 2019 年 11 月 1 日 [金]－12 月 15 日 [日] 所蔵作品展「MOMAT コレクション」＊本展の観覧料でご覧いただけます（入館当日に限る） 2019 年 11 月 1 日 [金]－2020 年 2 月 2 日 [日]
巡回	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館：2020 年 7 月 11 日 [土]－9 月 27 日 [日]

＜報道関係問い合わせ先＞

「窓展：窓をめぐるアートと建築の旅」広報事務局(ユース・プランニング センター内)
担当/池袋・平野

〒150-8551 東京都渋谷区渋谷 1-3-9 ヒューリック渋谷一丁目ビル 3F
Tel:03-5467-8638 FAX：03-3499-0958 E-mail：mado2020@ypcpr.com